



## ファイアウォール情報

この章は、次の項で構成されています。

- [ファイアウォール情報 \(1 ページ\)](#)
- [ネットワーク攻撃からの電子メールゲートウェイの保護 \(7 ページ\)](#)

## ファイアウォール情報

次の表に示すポートは、Cisco Secure Email Gateway を正常に動作させるために開く必要がある場合があります (デフォルト値を示す)。

表 1: ファイアウォールポート

デフォルトポート	プロトコル	内外 (In/Out)	ホストネーム	目的
20/21	TCP	入力または出力	AsyncOS IP、FTP サーバ	ログファイルのアグリゲーション用 FTP。 データポート TCP 1024 以上はすべて開いている必要があります。 詳細については、ナレッジベースの FTP ポート情報を検索してください。 <a href="#">ナレッジベース</a> を参照してください。
22	TCP	入力	AsyncOS IP	CLI への SSH アクセス、ログファイルのアグリゲーション。
22	TCP	発信	SSH サーバ	ログファイルの SSH アグリゲーション。

22	TCP	発信	SCP サーバ	ログ サーバへの SCP 配信。
25	TCP	発信	任意 (Any)	電子メール送信用 SMTP。
25	TCP	入力	AsyncOS IP	バウンスされた電子メールを受信する SMTP または外部のファイアウォールから電子メールをインジェクトする場合。
53	UDP/TCP	発信	DNS サーバ	インターネットルートサーバまたはファイアウォール外部の DNS サーバを使用するように設定されている場合の DNS。また、SenderBase クエリの場合。
80	HTTP	入力	AsyncOS IP	システム モニタリングのための GUI への HTTP アクセス。
80	HTTP	発信	downloads.ironport.com	McAfee 定義を除くサービス更新。
80	HTTP	発信	updates.ironport.com	AsyncOS アップグレードおよび McAfee の定義。
80	HTTP	発信	TAXII サーバ	Eメールゲートウェイで外部脅威フィードを使用できるようにします。
82	HTTP	入力	AsyncOS IP	スパム隔離の表示に使用されます。
83	HTTPS	入力	AsyncOS IP	スパム隔離の表示に使用されます。
110	TCP	発信	POP サーバ	スパム隔離のためのエンドユーザの POP 認証。
123	UDP	入力および出力	NTP サーバ	タイム サーバがファイアウォールの外側にある場合の NTP。
143	TCP	発信	IMAP サーバ	スパム隔離のためのエンドユーザの IMAP 認証。
161	UDP	入力	AsyncOS IP	SNMP クエリ。

162	UDP	発信	管理ステーション	SNMP トラップ。
389 または 3268	LDAP	発信	LDAP サーバ	LDAP ディレクトリ サーバがファイアウォールの外側にある場合の LDAP。Cisco スпам隔離のための LDAP 認証。
636 または 3269	LDAPS	発信	LDAPS	LDAPS — ActiveDirectory のグローバル カタログ サーバ (SSL 使用)
443	TCP	入力	AsyncOS IP	システム モニタリングのための GUI への Secure HTTP (https) アクセス。
443	TCP	発信	res.cisco.com	アップデート サーバの最新のファイルを確認します。
443	TCP	発信	update-manifests.ironport.com	アップデートサーバから最新のファイルのリストを取得します (物理ハードウェア E メール ゲートウェイの場合)。
443	TCP	発信	update-manifests.sco.cisco.com	アップデートサーバから最新のファイルのリストを取得します (仮想 E メール ゲートウェイの場合)。
443	TCP	発信	serviceconfig.talos.cisco.com grpc.talos.cisco.com email-sender-ip-rep-grpc.talos.cisco.com IP ベースのファイアウォールの場合： 146.112.62.0/24 146.112.63.0/24 146.112.255.0/24 146.112.59.0/24 2a04:e4c7:ffff::/48 2a04:e4c7:ffe::/48	Cisco Talos インテリジェンスサービス：IP の評価、URL の評価およびカテゴリの取得とサービスログの詳細の送信を行います。

443	TCP	発信	kinesis.us-west-2.amazonaws.com sensor-provisioner.ep.prod .agari.com houston.sensor.prod.agari.com	Cisco Advanced Phishing Protection クラウドサービスに登録し、ヘッダーの詳細を送信します。
443	TCP	発信	[セキュリティサービス (Security Services)] > [ファイルレピュテーションと分析 (File Reputation and Analysis)] の [ファイルレピュテーションの詳細設定 (Advanced Settings for File Reputation)] セクションの [クラウドサーバープール (Cloud Server Pool)] で設定されているとおりです。	設定されている場合、これはファイルレピュテーションを取得するためにクラウドサービスにアクセスするためのポートです。デフォルトポートは 32137 です。ファイル分析サービスの場合はポート 443 を参照してください。
443	TCP	発信	[セキュリティサービス (Security Services)] > [ファイルレピュテーションと分析 (File Reputation and Analysis)] の [ファイル分析の詳細設定 (Advanced Settings for File Analysis)] セクションで設定されているとおりです。	ファイル分析のためのクラウドサービスへのアクセス。ファイルレピュテーションサービスの場合は、ポート 443 または 32137 を参照してください。

443	TCP	入力および出力	<p>[セキュリティサービス (Security Services) ]&gt; [ファイルレピュテーションと分析 (File Reputation and Analysis) ]の [ファイルレピュテーションの詳細設定 (Advanced Settings for File Reputation) ]セクションの AMP for Endpoints コンソールの統合のパラメータで設定されているとおりです。</p> <p>api.amp.sourcefire.com api.eu.amp.sourcefire.com api.apjc.amp.sourcefire.com api.amp.cisco.com api.eu.amp.cisco.com api.apjc.amp.cisco.com</p>	AMP for Endpoints コンソール サーバにアクセスします。
443	TCP	入力および出力	<p>outlook.office365.com login.microsoftonline.com。</p>	メールボックス自動修復のために Office 365 サービスにアクセスします。
443	TCP	入力および出力	<p>オンプレミス Microsoft Exchange Server のホスト名</p>	メールボックスのメッセージを修復するには、オンプレミス Microsoft Exchange Server にアクセスします。
443	TCP	発信	<p>aggregator.cisco.com</p>	Cisco Aggregator サーバにアクセスします。
443	HTTPS	発信	<p>logapi.ces.cisco.com</p>	シスコ TAC によって収集されたデバッグ ログをアップロードするため。
443	HTTPS	発信	<p>TAXII サーバ</p>	Eメールゲートウェイで外部脅威フィードを使用できるようにします。
443	HTTPS	入力および出力	<p>api.sse.cisco.com</p>	Cisco SecureX または Cisco Threat Response に Eメールゲートウェイを登録するために使用します。

443	HTTPS	入力および出力	api.eu.sse.itd.cisco.com	Cisco SecureX または Cisco Threat Response に E メールゲートウェイを登録するために使用します。
443	HTTPS	入力および出力	api.apj.sse.itd.cisco.com	Cisco SecureX または Cisco Threat Response に E メールゲートウェイを登録するために使用します。
443	HTTPS	入力および出力	est.sco.cisco.com	証明書をダウンロードする場合に使用し、Cisco SecureX または Cisco Threat Response に登録するときに検証済みのサイトに E メールゲートウェイがアクセスしているかどうかを確認します。
443	HTTPS	入力および出力	AsyncOS IP	trailblazerconfig CLI コマンドを使用した、GUI への HTTPS アクセス。
514	UDP/TCP	発信	Syslog サーバ	Syslog ロギング。
628	TCP	入力および入力	AsyncOS IP	外部ファイアウォールから電子メールをインジェクトする場合の QMQP。
990	TCP/FTP	発信	support-ftp.cisco.com	シスコ TAC によって収集されたデバッグ ログをアップロードするため。
1024 以降	—	—	—	ポート 21 (FTP) に関する上記の情報を参照してください。
2222	CCS	入力および入力	AsyncOS IP	クラスタ通信サービス (中央集中管理用)。
	TCP	発信	AsyncOS IP	Cisco スпам隔離。
7025	TCP	In および Out	AsyncOS IP	この機能が一元化されている場合、Cisco Secure Email Gateway と Cisco Secure Manager Email and Web Gateway 間でポリシー、ウイルス、およびアウトブレイク隔離データを渡します。

6080	HTTP	入力または出力	AsyncOS IP	HTTP サーバの API ポートへのアクセス
6443	HTTPS	入力または出力	AsyncOS IP	HTTPS サーバの API ポートへのアクセス

## ネットワーク攻撃からの電子メールゲートウェイの保護

電子メールゲートウェイをネットワーク攻撃から保護するには、次の前提条件を満たす必要があります。

- ポート 22 (SSH) を電子メールゲートウェイの外部 IP アドレスに公開しないこと。
- Web インターフェイスと CLI 構成設定を使用して電子メールゲートウェイを管理する際、特定の IP アドレスのみを有効にすること。
- (必要な場合) `adminaccessconfig CLI` コマンドを使用して `Host` ヘッダー対策機能を有効にすること。
- `adminaccessconfig CLI` コマンドを使用して、クロスサイトスクリプティング対策機能を有効にすること。
- パブリックリスナーにリレールールを設定しないこと。



---

(注) 外部リスナーでリレールールが必要な場合は、通常のパブリックリスナーで「SMTP AUTH」を設定します。

---





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。